

# 《多摩川住宅の現状》

※現在の住宅の不具合を洗い出すことで  
建替えに向けての改善策につなげる。

※高齢者、身障者を対象にしていくことで  
健常者、子供など全ての人が暮らしやす  
くなります。



大公園から見た住宅

## 〈室内〉

- 1) 玄関ドアを入ってすぐ9 cm弱の段差を超えないと部屋に入れない。
- 2) 部屋の中は家具、調度品が並び車椅子の移動・回転はとても難しい。
- 3) 台所から洗面・トイレへの入口の幅は65cm、洗面所に入るには床が一段下がっているのとトイレの入口が55cmとさらに狭く、片開きドアなので使い勝手が非常に悪い。

## 〈階段〉

- 1) 階段の手摺の役割は非常に大きい。普通の人でも、手摺に手を添えて昇り降りしている。足腰の弱い人は1本の手摺を両手で掴んで横歩きで1歩ずつ移動する3点支持で安定性があり好ましい、両側に手摺を付けた方がなおよい。
- 2) 動けない人を階段から降ろすには、大人4人くらいでシート状の帆布に乗せて降ろすか背負って降ろすか又は両脇を2人で肩に支えて降ろすかいずれにしても、階段の狭さがネックとなっている。

## 〈建物出入り口〉

- 1) 建物から道路へ出た所に段差がある、これは排水溝があるためで無くすことは出来ない  
但し北側4 m道路の棟には排水溝が無いのでこの段差はない、棟によって差がある。



北側6 m道路の棟の出入口 4・5・6・7・10・11号棟



北側4 m道路の棟の出入口 1・2・3・8・9号棟

**室内で体の不自由な人が生活をするには、全面的にリフォームすれば何とか出来るでしょう。室内使用のコンパクトな車椅子もあります。トイレも福祉用の物も有ります。キッチンやベッド等も車椅子仕様に変えることで、室内での生活は可能となるかもしれませんが、しかし住宅の1階でも4段の階段があります、仮に階段昇降機を取り付けようとしても、階段幅が狭いため玄関ドアの開閉に支障があるので設置出来ません、そうすると1階にも住めません、体の不自由な人にとって正に住みにくい住宅といえます。**